自己評価実施要項等の作成に当たっての検討課題

大学における自己評価

目的の記述

○大学の使命，教育研究活動等を実施する上での基本方針，達成しようとしている基本的な成果等を記述 【II（3） P1】

○基準の内容に即して，各大学において，その目的を整理すること が必要 【基準1 趣旨 P2】

●「目的」をどの程度具体的に整理･記述してもらうか

基準ごとに教育活動等の状況分析

○全ての「基本的な観点」に係る状況を分析
･必要に応じて，学科･研究科等ごとに分析 【IV（2）①P3】

○目的に即して独自の観点を設定する必要があると考える場合には，「基本的な観点」以外の観点を設定することができる 【IV（1）③P3】

○優れた点，改善すべき点などの評価 【IV（2）①P3】

●観点ごとの分析に際し，取組の状況の記述のみにとどまらず，自己評価結果に一定の評定を行ってもらうか．またその際，各観点の判断の目安をどのように設定し，示すか

●個々の学部等の取組状況を大学全体としてどう評価するか

●自己評価書の分量は大学の規模により差を設けるか，また，様式はどのようなものにするか

機構における評価

○評価実施校の状況に応じた評価チームを編成．評価チームには評
価実施校の学科等の状況に応じた各分野の専門家等を配置 【III（1）P2】

○評価担当者が共通理解のもとで公正，適正かつ円滑にその職務を
遂行する 【III（2）P2】

○基準ごとに自己評価の状況を踏まえ，大学全体として基準を満たしているかどうかの判定を行う
･必要に応じて学科，研究科等ごとに分析･整理
･基準を満たしているかどうかの判断は観点の分析の状況を総合して行う 【IV（2）②（ⅰ）P3】

○優れた点，改善すべき点の指摘 【IV（2）②（ⅱ）P3，4】

●機構の評価の実施体制はどのようなものにするか

●評価担当者の研修をどのように行い，共通理解をどのように図るか

●対象大学が整理した「目的」をどのように評価に活用するか

●各観点ごとの分析を行う際に，一定の評定を行うか

●個々の学部等の取組状況を大学全体としてどう評価するか

●観点ごとの分析結果をどのように総合して，基準を満たしていると判定するか

書面調査

○自己評価書の分析及び資料，データ等に基づいて実施 【IV（3）P4】

●書面調査の内容，方法はどのようなものか

訪問調査

○書面調査では確認できない事項等を中心に調査 【IV（3）P4】

●訪問調査の内容，方法はどのようなものか

評価報告書

○評価報告書の作成 【VI（1）P6】

○基準を満たしているか否かの公表 【IV（2）②（iii）P4】

○対象大学及びその設置者に提供 【VI（2）P6】

○社会への公表（印刷物の刊行，ウェブサイトへの掲載等） 【VI（2）P6】

●評価報告書に記載する内容はどのようなものか

※［ ］内は，大綱等における掲載個所を示す